

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	大阪府
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	貝塚市立第三中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	16	32
生徒数	153	138	153	22	466	

研究の概要

1. 研究主題

『少人数制授業による学習意欲と学力の向上をめざして』 - 個に応じた指導を中核に据えて -
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年必修の数学と英語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学：生徒の希望に基づく習熟度別授業</li> <li>・英語：生徒の希望に基づく課題別授業</li> </ul> <p>（生徒の理解の状況に差が出やすい教科であるため。）</p> <p>2, 3年生の選択履修の数学と英語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の希望に基づく課題別・習熟度別授業</li> </ul> <p>（必修教科と選択教科との相互補完授業の達成を目指すため。）</p>
--

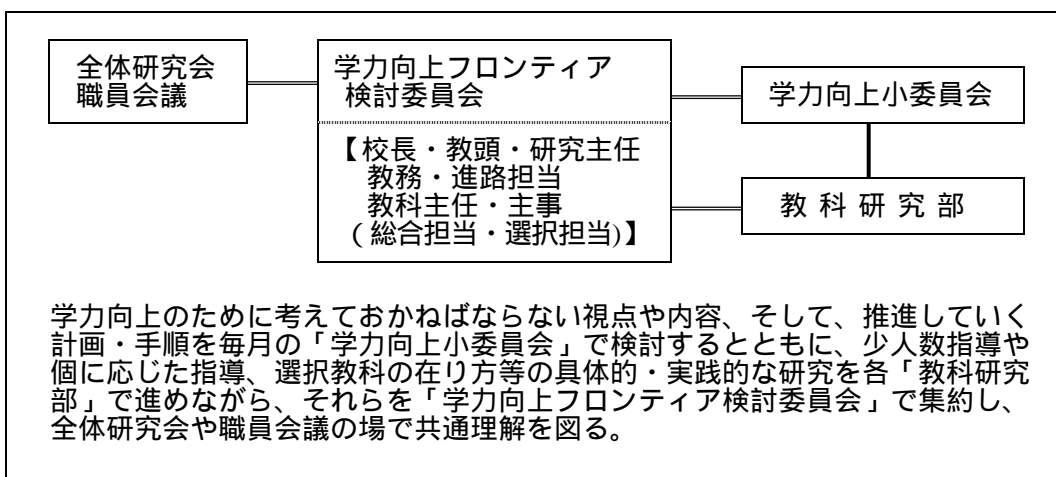
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ「習熟度に応じた授業内容の創造」</p> <p>仮説：クラスを習熟度により少人数に分割し、授業内容を工夫することにより、より効果的な学習が促進される。</p> <p>研究方法・内容：必修では習熟度による少人数分割授業を実践する中で、生徒の学習状況に応じた授業内容を工夫する。選択履修では基礎から応用までのコースを用意し、より少人数で習熟度に応じた授業実践を通して、その内容についての研究を行う。</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ「必修と選択履修の相互補完授業の達成」</p> <p>研究仮説「個に応じた指導を多様な方法で試みることで、学習意欲（学習に対する、あるいは学習における豊かな感情）が喚起され、それが狭い意味での学力とも連動して、相互に向上していく。」</p> <p>研究の指針と方法「1年次の研究を深化させるとともに、必修授業と選択授業の関連性についても研究し、相互補完できるように学習環境を整えていく。また、研究授業を通して、個々の具体的な事例ごとに実証的検討を加えていく。」「授業に対する意識調査や学力診断調査を実施して、生徒の質的变化を捉えて分析・考察する。また、授業においては「個に応じた指導」「補充・発展的な内容」等の様々な工夫を試み、その効果について具体的事例を通して実証的に考察していく。」</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ「個に応じた授業のためのストラテジーの確立」          仮説：より個に応じた授業形態と内容のためのストラテジーを確立することにより、基礎学力が伸長される。          研究方法・内容：1年次、2年次の研究を進展させ、様々な学習機会の中で、より個に応じた授業形態と学習内容、さらにそのストラテジーについての確立を行う。公開研究授業を積極的に行い、研究の過程及び成果を広く公開する。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

「学力向上フロンティア事業」の指定を受けてから、数学・英語科の少人数指導を中心に、選択履修の在り方も追求しながら、学習意欲の喚起と学力向上を目指してきた。また、個に応じた指導をどのように授業に組み込み展開するのかについても各教科で議論を重ねてきている。まだ、不十分な点も多く、研究を深めていくに伴い、新しい課題が山積していくというのが正直なところであるが、それでも多少の成果はあったように思われる。その成果について簡潔に記述する。

(1) 数学・英語科における少人数指導について  
 数学・英語の少人数授業を受けている3年生の2学級に対して、アンケート調査を実施したところ、次のような結果を得た。全ての生徒が自分に適したコースを選択できるような仕組みを持つという点については反省しなければならないが、授業の内容や質問のしやすさ等、様々な切り口において、その効果が現れているように思われる。これに満足せず、より一層の改善を図っていきたいと考える。

	はい	いいえ
今のコースは自分に合っている。	90.5%	9.5%
分割することに賛成である。	100%	0%
2分割と3分割では、3分割を望む。	31.6%	68.4%

	そう思う	やや思う	丁度よい 普通・変 わらない	やや 思わない	思わない
授業のペースが早い	4%	32%	46%	14%	4%
授業の内容が難しい	11%	50%	36%	4%	
質問がしやすい	25%	14%	46%	11%	4%
授業が丁寧である	18%	29%	50%	4%	
理解できる場が多い	14%	36%	39%	7%	4%
学習の意欲が出てきた	7%	50%	43%		
個別指導の機会が増えた		14%	86%		
発表・発言の場が増えた	14%	39%	39%	4%	4%

## (2) 選択履修について

質・量ともに充実させながら、習熟度別や課題別を意識した講座を開講してきた。また、必修授業との相互補完も図ってきた。結果として、発展的な学習を中心にした講座を受講して、得意教科をさらに伸ばしていったり、補完的な学習を軸にした講座によって、苦手教科を克服したりする生徒も出てきた。

生徒の感想にも「いつも授業（必修授業）では見ないような問題や難しい課題もあったけど、いろいろな考え方ができて楽しかった。」「普段の授業でやった内容の発展をやって、もっと深く理解できたと思う。そして、普段の授業も余裕を持って楽しみながらできるようになりました。」などの肯定的な意見が多数あり、選択授業の持ち方についての自信が、多少芽生えてきたと言ってよかろう。今後は、少人数を活かすとともに、必修授業における理解の状況を選択の担当者がどれだけ把握して臨んでいるかという点も考慮して進めていきたいものである。

## (3) 個に応じた指導について

「個に応じた指導」については、内容面・方法面・選択履修等の観点から、全教科挙げて取り組んできた。幾つかの具体的な事例を考察しながら、それらに共通している指導方針・指導姿勢を明らかにすることができた。個に応じるということに対して方法面からアプローチする中で、生徒Aがこのような指導でこのように変容したといった具体的な場面を提示しながら考察することもできた。そして、このことは「個性を生かす」という一つの指導目的に迫り得る活動へと高められたとも言えるのである。

## (4) その他

各教科における評価規準、評価方法・場面、判断基準の明確化を図りながら、指導と評価の一体化を進めることができた。妥当性と信頼性を有した客観的な評価に一步でも近づこうと努力する姿勢は、まさに、個に応じる指導に直結するものであり、延いては学力向上をも展望するものであろう。この意味で、評価に関わる様々な条件整備を並行して推し進めてきたことは、非常に意義のあることであった。

## 2. 今後の課題

これまでの研究の流れは、あえて言えば、学力向上の基盤を理論的に固めることを中心に置きながら、実践面では広く浅く取り組んできた嫌いがある。今後は、多様に取り組んできた指導内容や指導方法等における工夫を継続しながらも、その中から学力向上の核にすべき取り組みを幾つか選び抜き、実践的により深めて、その効果の程を統計的にも実証していきたいと考える。そして、願わくば、この3年間の研究を終えた後も、成果として得られた各種の知見を活かして、無理のない形で継続的・計画的に学力向上を追求し続けられるような道筋をつけたいと思うのである。そのためには、残された1年の間に、以下のような課題に挑まねばならないであろう。いずれも厳しい課題であるが、これら一つひとつの課題に精力的に取り組むことで、できる限りの成果を挙げ、「楽しくて力のつく授業・学校」を創造したい。

数学・英語科においては、少人数授業を通して学力向上のための確かなストラテジーを確立する。

個に応じた指導のためにどのようなアプローチが有効かを明らかにするとともに、個に応じるための理想的な指導案を提案する。同時に、各教科で研究授業を行い、実践事例を残す。

学校全体として、各教科内容を理解し切れていない生徒への組織的な対策を講じていくための「学習保障システム」を確立するとともに、各授業においても効果のある指導・支援ができるようする。

各教科内容を十分理解している生徒を一層伸ばすための方途を見出す。

各教科における発展的な学習や補完的な学習についても検討を重ね、オリジナルの具体例を幾つか提案する。

学習過程を「質的」により深く、かつ効率的に評価する視点や技法を探る。

## 学力把握のための学校としての取組

原則として定期テスト及び実力診断テスト（1、2年生は年1回、3年生は年4回）によって診断する。必要に応じて、基礎学力確認テストを行っている。また、アンケートを年2回、1学期、3学期に実施し、全ての生徒が自分に適したコースを選択できたか、授業の内容や質問のしやすさ、学習意欲等を調査する。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年10月30日(木)に、研究の中間発表会を本校および貝塚山手地区公民館にて実施。

1. 全体会・本校の取り組み概要・数学・英語科の少人数指導発表・指導講評
2. 公開授業
  - 第3学年必修教科 テーマ「効果的な少人数指導の在り方を探る」
    - ・数学「基礎コース(関数  $y = ax^2$ )」
    - ・数学「標準コース(関数  $y = ax^2$ )」
    - ・英語「グラマーコース(不定詞の応用)」
    - ・英語「コミュニケーションコース(不定詞の応用)」
  - 第2学年選択教科 テーマ「必修教科との補完を目指した選択授業」
    - ・国語「絵手紙を書こう」
    - ・国語「漢字検定に挑戦しよう」
    - ・社会「地理に強くなる」
    - ・数学「数学の応用問題にチャレンジ」
    - ・理科「身近なもので科学しよう」
    - ・美術「描写力アップを目指そう」
    - ・家庭「ものづくり」
    - ・英語「1年の復習に取り組もう」
3. 分科会・公開授業 についての研究協議・教科の基本方針
  - ・ねらいと工夫の説明・指導助言者からの助言

また英語科で開発した教材については公開し、効果の検証研究については、協力校を募集する。  
平成16年11月19日に、研究の本発表会（公開研究授業）を予定している。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	